



海外日本語教育レポート

第2回



ハンガリー日本語教師会代表、ブダペスト商科大学準教授 セーカーチ・アンナ

同運営委員、ブダペスト商科大学準教授 佐藤紀子

このコーナーでは、海外の日本語教育について広く情報を交換したり、お互いの交流をはかるために、各地域の新しい試みやコース運営などについて、関係者の方々に具体的に紹介していただきます。

ハンガリー日本語教師会（ハンガリー語略：MJOT）

1. 設立の背景

ハンガリーにおける日本語教育は1920年代初頭に始まりましたが、1980年代半ばまでは、限られた高等教育機関及び成人教育機関でしか日本語は教えられていませんでした。当初は、少数の日本人、ハンガリー人教師が、所属する機関の履修基準や学習者の要望に合わせて独自の判断でカリキュラムやシラバスを作成し授業を行っていました。しかし、1980年代になって日本との経済・文化交流が進展する中で、1986年にブダペスト郊外の小学校で実験的に日本語が導入され、1989年には中等教育においても日本語教育が始まりました。こうして、1990年代に入ると、ハンガリーにおける日本語教育は、学習者数、教育機関数、教師数のすべてにおいて飛躍的に発展しました。1992年からは青年海外協力隊により日本語教師が派遣されるようになり、1995年には東欧で初めて日本語能力試験が実施されました。国際交流基金ブダペスト事務所の調査によると、2002年1月現在、ハンガリー全国で学習者数約900名、教育機関数31、教師数は延べ人数で64名を数えています。しかし、このような日本語教育の発展にもかかわらず、国内で日本語教育を統括指導する公的機関はなく、異なる教育機関の教師相互の交流も殆どなく、各教師が孤軍奮闘を続ける状態が長い間続いていた。このような中で、数名の教師がヨーロッパ日本語教師会に参加し、他国の教師との交流を深めていった成果として、そうした状況を改善しようと教師会発足の動きが出てきました。2000年8月に開かれた第5回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムヘルシンキ大会において、ハンガリーが2002年のシンポジウム開催地として立候補を表明したことを受け、「教師会発足会」が結成され、2001年2月9日に「ハンガリー日本語教師会」が発足しました。発足にあたっては、国際交流基金ブダペスト事務所の強力なご支援を受けました。

2. 教師会の目的

教師会は、ハンガリーにおける日本語教育の振興を図り、日本との相互理解及び周辺諸国との交流を深め、文化交流に寄与することを目的としています。具体的には、下記の事業を展開することを目指しています。

- (1) ハンガリー及び周辺諸国の日本語教育の現状を把握すべく資料・情報などの収集、整理及び提供
- (2) 会員相互のネットワークの確立
- (3) 日本語教育研究会、研修会、セミナーの開催
- (4) 日本国内外の日本語教育の公的機関や諸団体との連絡
- (5) ハンガリー及び周辺諸国の公的機関や諸団体との連絡
- (6) 共同企画と開発
 - ・ 既存教材の調査・分析と教材開発
 - ・ 各種研修会（日本語教育セミナー・日本語講座等）
 - ・ 日本語教師育成への協力



「ハンガリー日本語教師会」設立総会 2002年2月

- (7) ハンガリー日本語教師会及び日本語教育に関する会報の刊行
にほんごきょうしがいおよ にほんごきょういく かん かいほう かんこう
- (8) マルチメディアによる広報活動
こうほうかつどう
- (9) その他の目的達成に必要な事業
た もくてきたっせい ひつよう じぎょう

3. 現在の組織

げんざい そしき

教師会では、発足とともに会則を定め、これに基づいて運営を行っています。会員は、2002年6月現在、正会員24名（ハンガリー在住の日本語教師及び日本語教育関係者 - 初等・中等・高等教育の各機関や個人教授で日本語を教えている教師）と準会員8名（将来日本語教師を目指す学生）、特別会員3名（この会の目的に賛同する個人及び団体）、合計35名（内ハンガリー人19名、日本人16名）から成っています。組織は、正会員の中から4名の運営委員（代表1名、代表補佐2名、会計1名）と会計監査1名。任期は1年です。ほかに、会報の発行担当者（任期なし）が1名います。会費は、年額で正会員1,000フォロントFt.（約500円）、準会員500Ft.、特別会員1,000Ft.以上となっています。会の収入は、会費収入に限られているためできるだけ支出を切り詰めるように努力しています。会員相互の連絡はインターネットを使ったメーリングリストを使用し、会報も国際交流基金ブダペスト事務所や日系企業の協力を得て発行。その配布も可能な限り直接手渡しで行うようにしています。

4. 現在の活動

げんざい かつどう

日本語教育セミナーの開催：

教師会の主催あるいは国際交流基金ブダペスト事務所との共催で定期的に開催しています。これまでに開催されたセミナーは、「インターネットを活用した読解教育」（東京国際大学 / ウィーン大学 川村よし子教授）、「スピーチコンテストの教育的効果」（会員討論会）、「カウンセリングマインドの接し方」（元流山市教育委員会カウンセラー 小松慶子先生）、「敬語のいろいろ」（東京外国語大学 / カーロリ大学 井上史雄教授）、「欧州共通教材プロジェクトとは何か」（神田外国語大学 / ブダペスト商科大学 ヒダシ・ユディット教授）、「チェコにおける日本語教育」（プラハ・カレル大学 近藤正憲講師 - 国際交流基金派遣）などです。



「日本語教育セミナー」

井上史雄カーロリ大学客員教授を招いて 2001年12月
いのうえふみ お だいがくきんいんきょうじゆ まね ねん がつ

日本語教育座談会「高校卒業統一試験を考える会」の開催：

従来から問題点が数多く指摘されてきた高校の日本語卒業試験について話し合う「高校卒業統一試験を考える会」を設け、高等教育機関で教える教師も参加し、問題点の整理や意見交換を行うとともに、今後の対応等を話し合っています。会の成果の一つとして、卒業試験用語彙集（日本語・ハンガリー語）の試用版を出版しました。

メーリングリストの作成とその活用：

教師会では、会員相互のネットワークを確立するために、発足後すぐにメーリングリストを作成しました。単に事務的な連絡事項の伝達だけではなく、毎日の授業の中で出会う問題を会員相互で共有し、相談や討論、意見交換の場として大変有意義に活用されています。例えば、副詞の意味や教え方、助詞「に」と「と」の違い、導入の仕方など、日本人とハンガリー人の会員相互に活発なやり取りが行われ、より良い教え方のアイデアなどがインターネット上で飛び交っています。



「高校卒業統一試験を考える会」 2001年5月
こうこうそつぎょうとういつしけん かんが かい ねん がつ

会報の発行：

教師会では、隔月発行の『MJOT 会報』を通じて、教師会の主催・共催するイベントや講演会、会合の報告や予告、日本語教育関係の情報提供や本の紹介などを行っています。

シンポジウムや学会の開催や参加：

2001年8月にカーロリ大学で行われた第14回日本語教育連絡会議（注）ブダペスト大会の準備・開催に協力しました。教師会からも4名の会員が発表しました。

2002年9月にはブダペスト商科大学貿易学部を会場に、ヨーロッパ日本語教師会との共催で第7回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムを開催する予定で、7名から成る実行委員会が、企画・運営にあっています。今回のシンポジウムは、世界20カ国から130名以上の参加者を迎える予定で、ハンガリーの日本語教育関係者と国外の関係者のネットワークの充実を図る良い機会となることが期待されます。



「日本語教育勉強会」ヒダシ・ユディット
神田外国語大学教授（会員）講演 2002年3月

教材や辞書の開発：

卒業試験用語彙集の試用版を本格的な語彙集にする取り組みが始まっています。また、教師会の会員により日本語・ハンガリー語中辞典の編纂が進んでいます。このほか、高校生用の教材開発を進める動きもあります。

5. 今後の課題・展望

ハンガリーにおける日本語教育はこの10年間で量的に飛躍的な拡大をしましたが、21世紀は質的な成長期を迎えることが期待されます。そのために教師会の果たす役割は大変重要なものとなるでしょう。

発足して間もない教師会では、まだ学習者のための活動はそれほど活発ではありません。しかし、従来教師会として企画運営に直接関わってこなかった「日本語スピーチコンテスト」に、2003年からは積極的に参加していくことが検討されています。また、「高校卒業統一試験を考える会」では、卒業試験の問題作成に教師会として参加できない現状を改善するために、中等教育関係者と高等教育関係者が協力し、参加できるよう、教育省への働きかけを考慮しています。今後は、このような教師会の会員が積極的にかかわる学習者向けの活動をさらに広げていく必要があるでしょう。

教師向けの活動では、従来から開催してきたセミナーを会員の研究発表の場として活用していくことや、会員相互に授業研究を行い、技術の改善を図ることも考えられています。また、従来から日本語教師がハンガリー応用言語学会などで発表を行ってきましたが、今後も会員がハンガリー国内の学会での発表や学術雑誌への寄稿を積極的に行い、ハンガリーの外国語教育において日本語教育を広く認知させることも重要な目標です。さらに、隣国の教師会との交流を深めると同時に、ハンガリー国内の日本学研究者との交流も図っていくことも今後の課題といえるでしょう。

教師の給与と所得がきわめて低いハンガリーにあって、限られた予算の中で教師会を運営していくことは並大抵なことではありませんが、予算の不足を会員の熱意や関係各機関からの支援で補うことにより、今後も活発な活動を展開していきたいと考えています。

注：東欧及びその周辺地域の日本語教師が集まり、情報交換と日ごろの研究成果を発表することを目的として1988年に設立された組織。第一回会議は当時のユーゴスラビアのドブロブニクで開催された。活動は年に1回夏に開かれる会議とその会議の総合報告書発表論文集の出版である。会員組織ではなく、全て自由参加。現在は東欧だけでなく、世界各地から参加者が集まっている。詳細は、土屋千尋氏（会議の発起人の一人で、日本側事務局代表）著「日本語教育連絡会議」（『2000年版海外就職日本語を教える』1999年7月アルク発行 P.187）を参照のこと。